

朝の礼拝

聖書 詩編 104 編 10-14 節 (新約 941 頁)

- 10 主は泉を湧き上がらせて川とし
山々の間を流れさせられた。
- 11 野の獣はその水を飲み
野ろばの渴きも潤される。
- 12 水のほとりに空の鳥は住み着き
草木の中から声をあげる。
- 13 主は天上の宮から山々に水を注ぎ
御業の実りをもって地を満たされる。
- 14 家畜のためには牧草を茂らせ
地から糧を引き出そうと働く人間のために
さまざまな草木を生えさせられる。

分かちあう恵み

秋も深まり、教会の暦も一年の終わりが近づいています。歴史的にカナダやアメリカでは冬に入る前の10月から11月を一年の終わりと感じていました。寒く厳しい冬が来る前に一年の収穫に感謝し、長い冬に備え食物を蓄え、無事に春を迎えられるようにと祈っていたのでした。

彼らの先祖はヨーロッパからの移民です。彼らが新天地に入植した頃、そこはどこまでも続く荒れ果てた大地でした。しかし、そこにはネイティブ・アメリカン、カナダでは **First Nations** という言い方をしますが、先住民が伝統を守って生活をしていたのでした。彼らは先住民から土地、家族を奪い、奴隷にし、彼らの神聖な大地を汚しました。

カナダ西部、ブリティッシュ・コロンビア州のバンクーバーから国境を挟んだアメリカ北西部にシアトルという町があります。私は留学中、シアトルの牧師さんのところにしばらく滞在したことがあ

りました。その時、カトリック、プロテスタントの各教会の代表が先住民の方たちを招く会が開かれました。「自分たちの先祖が入植した時、あなたたちの先祖は私たちの先祖に親切にして下さった。しかし私たちの先祖はあなたたちの土地、収穫、愛する家族を奪いました。」と書かれた謝罪文を、教会の代表者全員のサインを入れて、先住民の方に渡したのです。

ヨーロッパで王様や貴族などの権力者から自由になるために新天地を求め、厳しい旅をしてきたにも関わらず、今度は自分たちが先住民の自由を奪うとは、とても悲しく残念なことです。

宗教や伝統、民族や人種が異なっても、神様はすべて命あるものに等しく泉を湧き上がらせ生きる水を与え、そして生かされてるものは互いに恵みを分かちあうと、詩編104編は歌っています。

秋が深まり、この一年の神様の恵みに感謝すると共に、与えられた恵みを分かちあいたいと願っています。

祈祷 祈りましょう

私たちを愛し、励まされる主よ。

この一年も豊かなみ恵みと導きの下、日々学校生活を送れることを感謝します。これから創立記念日、全校修養会、そして収穫感謝の季節を迎えます。感謝と共に与えられた学びを愛と奉仕のために分かちあうことができますようにお導き下さい。どうか今日一日もすべてをあなたに委ね、あなたの祝福のうちに歩ませて下さい。

主イエス・キリストの御名によってお願いいたします。アーメン